



配置平面図 S=1:300 1風除室 2土間 3中庭 4イングリメック 5寝室 6読書室 7台所/クッキングストープ 8食品庫 9乾燥室 10サニタリー シャミチセ川

設計趣旨

住み手の距離感は親密な関係から一人きりの状態まで、各々の気持ちによって刻一刻と変化する。各人が互いの存在を意識しつつも、しっかりと馴染む居場所を選択しうる住宅を考察した。まず、近世以前と近代以降の住宅の違いに着目した。近代住宅を『住まい→部屋→家具』という三階層の構成とすると、近世以前は『住まい→部屋→入れ子状の空間→家具』という四階層だった。この違いから近代住宅は透明性を確保し得たと考えられる。次に、『入れ子状の空間』を類型化した。アルコーブ、入り込める暖炉、天蓋付きベッド…、多様な表現があるものの、三通りに括ることができよう。この階層こそ、親密な関係と一人きりの状態の両極を受け止めていたと考えられる。本計画では近代住宅がもつ透明性を維持しつつ、『住まい→入れ子状の空間→家具』という階層に置き換え、住み手の変化する距離感に応えようと試みた。

プランはコアを点在させた正方形のワンルーム。外周壁面沿いは全て家具とし、キッチン、ユーティリティ、サニタリーも納めた。これらの機能空間は庭、玄関、コアの用途に準じて、土間を介して合理的に配した。緩やかな相似三角形のコアには、二つの性格を与えた。第一に、従来は機能を納めてきたコア内部を『入れ子状の空間』とし、生活の場にした。中庭とイングリメックが親密な場、読書室と寝室が一人きりの場となる。第二に、従来は対流を促してきたコアの各辺を凹ませ、滞留を促す緩やかなアルコーブを設けた。住み手の背後を守る壁が住まい全体に分布する。複数のコアは、馴染む居場所と自由に選択できる動線を両立させる。住宅機能の配列という計画面を踏まえつつ、住み手同士の距離感や気持ちを優先させよう、ルーズなプランを描けたと思う。コレクティブハウスとしての将来的活用も想定している。

設計概要

- 建設地
- 北海道伊達市
- 工程
- 設計期間：2007年11月～2010年5月
- 施工期間：2010年6月～2011年3月
- 規模
- 建築面積：122.70㎡
- 延床面積：122.70㎡
- 構造
- 木造平屋

- 主な外部仕上げ
- 屋根：繊維混入ケイ酸カルシウム板の上に塗膜防水
- 外壁：道南杉板貼（箱目地・素地）
- 開口部：スチールサッシュ・複層ガラス・アクリル
- 主な内部仕上げ
- 床：無垢フローリング（イタヤカエデ撥材）、蜜蝋ワックス
- 壁：左官（ほたて漆喰）、シナ合板染色
- 天井：シナ合板染色
- 家具製作：奥田忠彦
- 薪ストーブ製作：サカシタペチカ



- 設計：植田 暁/NPO 法人景観ネットワーク
- ：内野晴日/有限会社風の記憶工場
- ：菊池規雄/ワンダーアーキ建築設計事務所
- 彫刻：廣瀬智央
- 施工：須藤建設株式会社
- 撮影：酒井広司/グレイトーンフォトグラフス

